

玉造順一

2025.6.1 発行

県政報告

茨城県議会議員 玉造順一の政策と活動を紹介します

【玉造順一プロフィール】1971年11月 水戸市本町生まれ（53歳）。浜田小、水戸二中、緑岡高、茨大人文学部卒。同大学院人文科学研究科修士課程修了。労働金庫勤務を経て、水戸市議（3期）。現在、茨城県議（2期）。土木企業立地推進委員会、予算特別委員会、新たな茨城づくり調査特別委員会に所属。

台風や豪雨に備えた地域の防災・減災対策に 県の役割発揮を！

2019年10月の台風19号による水害は、水戸市・城里町に大きな被害をもたらしました。また近年、激しい集中豪雨や宅地化の進展などに伴う雨水流出の増加によって、側溝や水路、下水道だけでは降った雨を流しきれず、内水はん濫が頻発しています。

こうした状況を踏まえ、「貯める」対策とともに、流末である県管理河川の整備が重要です。

3月定例会の予算特別委員会では、水戸三中周辺の浸水と新川の整備について取り上げました。玉造順一は今年度、土木企業立地推進委員会の所属となりましたので、市町村の災害対策を支援する県の役割を発揮するよう活動してまいります。

2025.3.19 予算特別委員会

新川の整備について

玉造 水戸市を流れる県管理河川の新川は、下市地区の排水の流末であり、頻発化する豪雨により、周辺地域の浸水被害が発生するようになった。水戸市は、県に対し毎年河川改修の要望を出しているが、本格的な改修には至らないため、市では下市地区の浸水被害防止に向けたため池整備事業を新年度予算案に盛り込んだ。

私は、このような市の実施する防災・減災対策と並行して、早期に新川の改修を位置づけるべきだと考えるが、土木部長の見解を伺う。

土木部長 県では、2014年度までに護岸整備や堆積土砂の撤去を実施した。ソフト対策としては、河川監視カメラや水位計を設置したり、2023年度に洪水浸水想定区域図を公表するなど、防災情報を提供している。今後とも適切な維持管理を行うとともに、水戸市との役割分担のもと、住民の安心・安全の確保に努めていく。



2025年 第2回 「玉造順一タウンミーティング」 のご案内

2025年 6月15日(日) 開始13:30 終了15:00

会場:ザ・ヒロサワ・シティ会館 本館・集会室3号

入場
無料

特別報告 1

イバラキが変われば日本が変わる — 大井川県政を取材して感じたこと —



講師：ジャーナリスト 小林 美希さん

略歴 1975年茨城県生まれ。水戸一高、神戸大学法学部卒業後、株式新聞社、毎日新聞社『エコノミスト』編集部記者を経て、2007年よりフリーのジャーナリスト。就職氷河期世代の雇用、結婚、出産・育児と就業継続などの問題を中心に活躍。月刊誌『地平』で茨城県政の検証記事「ルポ イバラキ」を連載。『ルポ保育格差』（岩波新書）、『ルポ看護の質』（岩波新書）、『年収443万円』（講談社現代新書）、『ルポ学校がつまらない～公立小学校の崩壊』（岩波書店）など、著書多数。

特別報告 2

大津漁協解雇撤回訴訟の控訴審で全面勝利した永山孝生さん

特別報告 3

不当解雇撤回を求めて活動中のJAL被解雇者労働組合 中田弥生さん

お気軽にご参加ください。

県政報告会など最新情報は、
こちらで発信しています。
ぜひご登録ください。



つながる
玉造順一
LINE公式

玉造順一事務所

〒310-0815 水戸市本町1-10-11
TEL 029-303-1255 FAX029-303-1260
✉ jtama.office@gmail.com